

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 協仁会 グループホームなごやか
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	大阪府寝屋川市川勝町11番27号
記入者名 (管理者)	西浦 福子
記入日	平成 21 年 11 月 24 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>家庭や地域に開かれた施設とし、施設目標や年間目標にして職員が特性をいかしながら、ケアの質の向上へ向けた取り組みをしている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>会議で話し合い、理念を職員が理解し年間目標に具体化させ、意識を持って日々のケアに、繋げて行く様になっている。家族へは、家族会や面会時に説明し報告している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族へは、入居時や家族会(年2回)などで説明し理解してもらっている。地域へも、運営推進会議、老人会で説明し理解してもらいやすいようにしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>定期的に地域の老人会に出向き、世話役の方や地域の高齢者と話をしたりの付き合いはしている。また、地域のボランティアに働きかけ外出支援を利用し、近隣に出かけている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の老人会に参加し、入居と一緒に地域の人々と定期的な交流で関係を深めている。地域のホットステーションや盆踊りに参加したり、自治会の方をランチパーティーや健康祭りに招待している。また運営推進会議では各委員会などの活動報告もしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	老人会や校区福祉委員長を通し、地域の高齢者の役に立つことはないかなど、話し合っている。運営推進会議時にも討議している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームにおける質の確保や向上に向けた再点検と改善に向けた課題が具体的に見い出せ、職員全体で話し合い日々のケアに活かしている。意識を持って取り組むことで、良質なケアサービスにつなげている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開き、要望や改善点が出た場合は、職員間の会議で話し合い改善し、サービスの向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	寝屋川市の包括支援センターのネットワーク会議での研修やグループホームの担当者会議等に参加し、質の向上に取り組んでいる。 (市のホームページを活用し、情報を得るようにもしている。)		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護等の研修会に参加し、学びを職員間の会議で話し合い反映させるようにしている。入居者の中でも成年後見人の支援を受け活用しているので、今後も必要な人には活用できるように積極的に支援したい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の勉強会や研修に参加し、職員間でも話し合いの場を持ち虐待防止に日々努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に運営規定や利用契約、重要事項説明書などを明示、説明し理解・納得してもらえやすいようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や希望・不満などを気軽に言えたり、相談できるようにしている。入居者も運営推進会議に参加し、意見を聞き日々反映させている。(相談窓口や法律相談等もある。)	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話での連絡、ホームだよりなどでも暮らしぶりを含めた近況を報告している。健康状態は特に、随時報告連絡をするようにしている。金銭面に関しては、面会時に小遣いの収支を説明し、確認してもらい意見を聞くようにしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会時や家族会・運営推進会議等で機会を設け、意見や要望について話し合い、結果などは掲示し反映させている。 (相談窓口・法律相談の紹介もしている。)	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議で機会を設け、話し合い反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度、協力し合い勤務の調整に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者への影響が出ないように、精神的なフォローは特にしている。全体会議・フロア会議を利用し話し合い、不安や支障をきたさないようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>採用時あるいはフォローアップ等、それぞれの段階に応じた内・外部研修を職員が受講できる体制になっている。研修後は勉強会(学習会)等で、他職員のレベルアップに努めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他施設への訪問や寝屋川市の包括支援センターのネットワーク会議ら研修に参加し、質の向上に取り組む活かしている。地域外の施設が見学時にも情報交換し、良い面は取り入れるようにしている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>各フロアや全体での会議の中で、気軽に話し合いが出来るようにしている。また、行事後に会食したりしてストレスの軽減をしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の経験や得意分野が個々に、発揮しやすいように小グループの委員会を作り、毎月1回会議を開催しチームで成長できる環境作りをしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>日常的に相談事などに対応できるように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>施設説明、見学、体験入居などを行い、家族の不安や求めていることなどを聴く機会を作っている。カンファレンスで問題定義し話し合い対応している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があれば話し合い、支援を見極めできる限り支援している。 施設内では難しい場合は、法人内の多機能性を利用し対応するようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居や見学の回数を増やしながら、徐々に馴染みの関係を深めて、グループホームの生活に入りやすいように支援している。		
それが、また新たに				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と一緒に生活するというを大切に1日の生活の流れに添って掃除、調理、など家事を共同で行っている。その中で学び支えあう関係作りにも努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会時に、気付いたことや要望など普段からコミュニケーションを取り、話しやすい関係作りにも努めている。また、なごやかだよりの発行等で定期的な近況報告も行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	なごやかなの行事に参加して頂き家族の見た事のない本人が、発見でき、それが、また新たに より良い関係作りができるものとなる様努めている。また面会時には、散歩や外食など気分転換も兼ねてお願いしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にされてきた ご友人などの方々などが、面会しやすい また電話しやすい雰囲気を作るよう努めている。また地域の老人会などに参加し関係継続の支援などもしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の性格を理解し その方に合った場の提供を行っている。また入居者それぞれが、得意な事を活かし利用者同士が、学び合い支え合う関係作りが出来る様努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	不定期ではあるが、電話や手紙などで現状を尋ねたり、面会に行くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で常にコミュニケーションをとり、本人の希望や考えを引き出すケアに努めている。それが困難な場合もなるべく本人の希望に添えるよう、家族・職員で検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時はもちろん普段の面会時など家族に聞き取りをしながら、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護計画書や日々の申し送り、その他にも個人記録で些細な変化等を記録に残している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンス及びサービス担当者会議を定期的に行い入居者の状況や家族の希望及び今後の方針など話し合い必要性に応じて再度カンファレンスや担当者会議を行い介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族や本人、職員の意見を聞き3ヶ月に一度見直しを行う。現状に変化があれば、必ず、その都度カンファレンスを開いて見直しを行い新たな介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別に記録を残し情報を共有できるようにしている。また、職員には担当の入居者については特に、観察等を行いケアについてのアイデアの提供に努め介護計画の見直しに役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望があればその都度、部署内で話し合い支援している。部署内だけでは難しい場合は、法人全体の多機能性を利用し支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアなどの協力で、定期的に外出や話し相手、余暇活動で協働している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険事業所ネットワーク会議等に参加したり、必要に応じて他のサービス事業者と連絡を取り合い(サービス担当者会議を含め)支援している。(市のホームページを活用して情報を得る事もある。)		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市町村の定期的な会議に参加したり、運営推進会議等で必要に応じて協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人で、病院が隣接しているため、支援も万全である。かかりつけ医や訪問看護ステーションの看護師によって、定期的及び24時間体制での支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使い等については、常日頃からスタッフ1人1人が自覚を持ち、また、スタッフ同士注意し合える関係作りに努めている。個人情報については保管場所を決め取り扱いには十分注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活援助の中で入居者が自然に思いや希望を話せるようなケアに努めている。また、自己決定を行えるよう誘導、助言を行い日々のケアに努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れは決まっているが1人1人のペースを大切にケアの時間を適宜ずらすなどして対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月、訪問理美容を行っており、カットやパーマ・カラーなど楽しめるように企画している。その他にも希望があればスタッフや家族の付き添いの元、希望のお店へ行くようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日スタッフが声かけを行い準備や調理、片付け等一緒に行っている。また、月1回季節に合った手作りおやつや、週1回希望を取り入れたメニューを作り入居者の残存機能を活かしながら他のしんでいただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の好みに合わせたものを一緒に購入したり、家族の面会時に持参していただいたりし、楽しんでいただいている(夕食時に晩酌等も楽しんでいる)	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者1人1人の排泄パターンの観察を行い、本人に合わせた時間で個別に誘導を行っている。また、排泄チェック表を活かし状況にあわせ段階的にオムツはづしにも取り組んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ希望された時間に入浴していただけるよう努めている。また、排泄で失敗された時などはその都度入浴を勧めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的に入居者の生活習慣を優先し、好きな時間に就寝して頂いている。また、体調に合わせて昼寝等も勧めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者1人1人に応じた能力・生活力を活かし、興味を持つことに参加してもらい生活に張り合いが持てるように援助している。また、気分転換に散歩や買い物に出かけていただいたり、生け花・ドックセラピー・誕生日会を毎月行い気晴らしして頂いている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出かけ希望する物を購入し、能力に応じて支払いをして頂く。また常時お金の所持を希望する利用者には財布を持っていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調に気を付けながら、ゴミ捨てや散歩など少しの時間でも外出の機会を作るよう努めている。また地域のボランティアに働きかけ散歩の支援なども定期的に行っている。家族の面会時に散歩をお願いするなどしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠足等は日を分け、諸人数で行く事により行ける場所の範囲も広がり入居者には喜んでいただいている。また定期的な外出や希望があれば日を設定し外出している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば常時電話し、お話ししている。また、手紙も書きたい時に書いていただいている。返事などもとても喜ばれている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関にインターフォンがあり、気軽に訪問していただけるようにしている。また、家族や知人が面会に来られたら、居室へ誘導し気軽にゆっくりとお話ができる様心配りを行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部・内部の研修を職員が受講し、また研修後に勉強会を開催し、日々のケアで実践しより良いケアを目指している。引き続き、身体拘束ゼロにむけて一人ひとりの尊厳を守り支援したい。	○	業務的ではなく、本当の意味で一人ひとりに合わせた「介護」を考え最優先することが、大切なので尊厳を守り質の高いケアに取り組み、ゼロに向けて改善し続けたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	閉鎖的な環境にならないように天気の良い時は、ベランダや窓を開けて対応している。	○	鍵を掛ける事で自由に出られないなどのストレス、デメリットについて話し合ってるが、周囲の環境的に難しい面もあり、引き続き検討して行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日常、入居者の所在確認を行いプライバシーに配慮しながら様子観察に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の能力に応じて、調理の際は包丁・生け花の際はハサミなど使用して頂いている。ただし、管理には十分注意して危険防止に努めている。内服に関しても保管管理には十分気をつけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災訓練を行い、知識を高め緊急時の対応に備えている。また、入居者の転倒・スタッフの誤薬などヒヤリハットノートに随時記入しスタッフ全員が把握し事故防止に役立てている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設内で定期的に学習会を開いたり、訪問看護師の指導を受け知識を付けマニュアルを作成し体応できる様になっている。初期の対応は訪問看護師に連絡し、指導をもらい応急手当し隣接の病院に受診している。緊急時は病院に連絡して受診している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接する事業グループで災害時の協力体制を取っている。半年に1回定期的な訓練はしているが、全職員が慌てず非難誘導できるよう周知徹底させたい。運営推進会議でも地域の協力をいたたけるよう話し合っているとところである。	○	地域の人々への協力体制作りを話し合っているが、引き続き具体化させていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時の転倒リスクシートチェックを元に説明し、また心身の状態変化に伴い、その都話し合っている。職員間でも話し合い対策を立て、ケアを工夫している。家族に協力してもらうこともある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りにて利用者一人一人の体調の変化を把握し日々の変化を観察する。少しでも変化ある時は、リーダーに報告行い訪問看護師に相談したり連絡行う。緊急時にも対応できるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を記載したファイリングノートを把握し受診時、新たに処方された薬については、申し送りを必ず行い職員全員が把握できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度な運動を行い時には、マッサージを施行し排便を促す。便秘の時には、水分や乳製品を摂ってもらい排便を促す。排泄表にて毎日、把握行う。受診時に医師と相談し指示してもらう。研修にて高齢者の便秘についても職員に理解してもらっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを促し誘導、見守り、介助を行なっている。夜間は義歯も外し消毒を実施しており定期的に歯科受診にて口腔チェック、指導を受け支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量については、毎食後チェックし個別に記録を残している。摂取量の少ない方に関しては、食事形態の見直しなどその都度スタッフで考えている。それでも少ない方には補食や嗜好品などで対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防についてはマニュアルがあり、スタッフ全員が把握し研修などにも積極的に参加して意識を高めている。また毎日、午前と午後にフロア・手すり・トイレなど消毒を行い汚染物の処理には手袋を使用し感染予防に努めている。食前・トイレ後・外出から帰ったら手洗いうがい消毒に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具などは毎回、中性洗剤で洗い、食器乾燥機の熱風で乾燥し食器保管庫で保管している。食材は毎日、業者に新鮮な物を配達してもらい温度測定後、日付記入し冷蔵庫保管している。調理した物も長時間置かないようにし、どちらも早めに処分するように徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	インターホン、電気錠にて出入りする事ができ、玄関先も生け花や置物などを飾りアットホームな明るい雰囲気になるように、工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居室には生け花があり、各フロアに植物を置いたり、飾りを作ったりして季節感を出すようにしている。光が気になる所には、簾などをかけ対応している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には、休息や団欒できるテーブル・椅子が置いてあり、ゆっくりとくつろげるスペースがある。また、リビングにはソファがあり、入居者同士が語り合う場所が確保されている。フロアで自由にテレビを観たり、音楽が聴けたりできる様にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者が自宅で使い慣れたタンスや小物入れなどを自由に置いて頂ける環境作りをしている。また、家族や行事の時の写真・季節の塗り絵等を飾り、居心地よく過ごせる様工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	基本的に本人の希望に合わせているが、定期的に換気を行い暖房使用時は加湿も徹底し行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・トイレ・廊下・居室など手すりが設置されている。また、施設内はバリアフリーになっており、歩行器や車椅子でも安全に移動出来る様になっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者一人ひとりに合わせた助言・誘導を行い、自立して暮らせるようにしている。トイレなども照明や大きな字で分かり易いように表示している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	散歩やゴミ捨て等と一緒にいき、川沿いを歩いたりして季節の移り変わりを楽しんでいる。また、ベランダでは草花を育て、共に成長を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

*医療と福祉の連携で、日々の体調管理や急変時に迅速な対応ができています。常日頃より高齢者の病気について学習していることから、入居者の体調管理及び感染予防対策を強化している。(マニュアルを徹底し手洗い・うがいの励行と消毒をまめに行い、生姜湯やホットレモンなどを飲む機会を多くし体の中から温め予防)
2Fは精神面に起伏のある症状の方が多いので、日々の状態に合わせ傾聴したり、アクティビティ的な事に力を入れ気分転換できるように援助している。